



太田国土交通大臣に要望する岩浅市長

市民の声を国に届ける！
関係機関と連携し、要望活動を積極的に展開

本市では、市民生活の大動脈である高速道路ネットワークの整備が非常に遅れており、特に徳島県南部地域から高知県東部地域にあつては、高速道路の空白地帯となっています。

また、那賀川の水と共に生きる阿南市民にとって、春・夏の

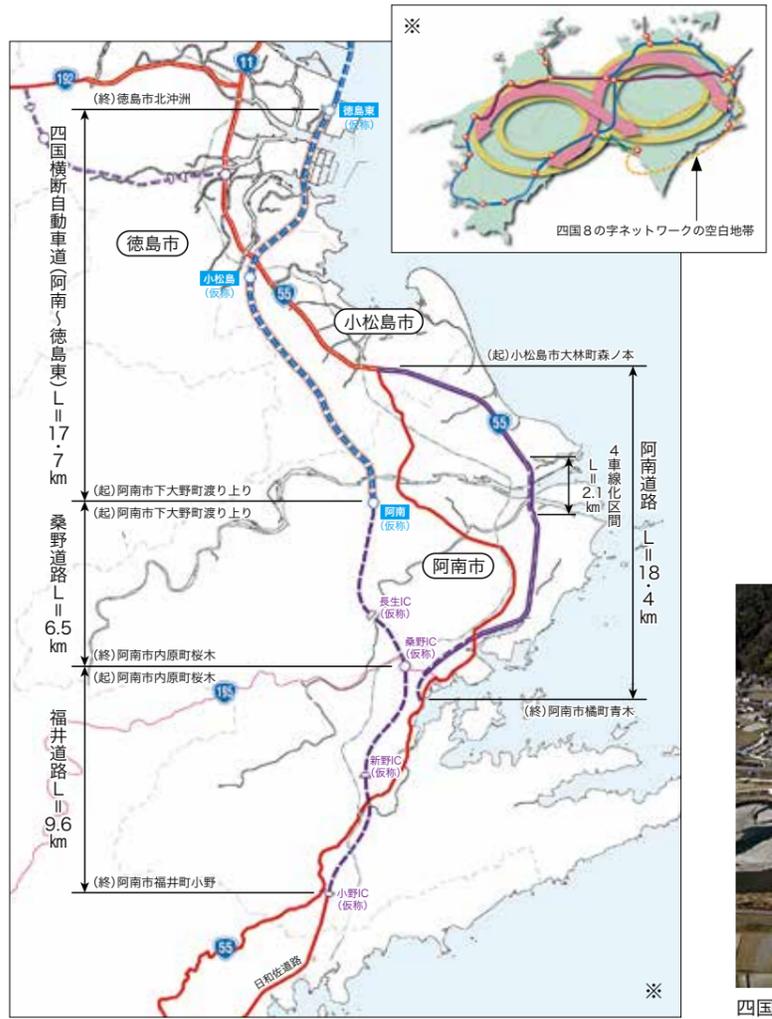
洪水や長期の取水制限により農業用水や工業用水に影響を受けている昨今、那賀川水系の適切な管理、整備推進は欠かすことはできません。「四国横断自動車道」、「桑野道路」、「福井道路」、「長安口ダム改造事業」等の一日も早い完成は市民の願いです。

こうしたことから、市では、阿南商工会議所や阿南市議会、各種団体等の関係者で組織した「阿南市高規格道路等建設促進期成同盟会」および「那賀川洪水対策協議会」と連携し、国土交通省四国地方整備局や徳島県、さらには中央省庁（財務省・国土交通省）や県選出国会議員、四国ブロック選出国会議員等に対して積極的に要望活動を行っており、毎年、着実に関係予算が確保され、各種事業の推進が図られています。



= 特集 =
**災害に強い
安全で安心な
まちづくり**

一般国道55号阿南道路 那賀川大橋付近
4車線化完成イメージ ※



「安心」と「活力」を支える
四国8の字ネットワークの整備

四国の高速度ネットワークは、その形状から「四国8の字ネットワーク」と呼ばれています。「四国8の字ネットワーク」の空白地帯を結ぶために、四国横断自動車道（阿南～徳島東）において、現在、用地買収や橋梁・トンネル工事等が進められており、約20%の事業進捗（平成25年度末）となっています。

また、桑野道路・福井道路において、現在、調査・設計等が進められています。



四国横断自動車道（羽ノ浦町上岩脇地区、手前は下大野地区）※

安全で安心なまちづくりはみんなの願い—。
今、市内の各所で防災・減災対策関連の工事が着々と進められています。（※画像提供：国土交通省）

那賀川大橋付近の
4車線化工事
平成31年度完成へ

一般国道55号阿南道路は、小松島市から阿南市における交通混雑の緩和および交通の安全確保を目的として整備を進めている全長18・4キロの国道バイパスです。

現在、那賀川大橋付近で発生している慢性的な渋滞の緩和を図るため、4車線化工事が進められており、平成31年度に完成の見通しです。



一般国道55号阿南道路工事状況（那賀川町中島付近）※

Safety & Security
1
Safe Road
道路

高速ネットワークは、災害発生時における地域の孤立化を防ぎ、迅速な救急・救援活動を支えるとともに、地域経済・産業の活性化に資する重要な社会資本です。地域の「安心」と「活力」の両面を支える「四国8の字ネットワーク」の一部として、四国横断自動車道（阿南～徳島東）や桑野道路・福井道路の整備が進められています。また、第1次緊急輸送道路の一般国道55号阿南道路において、那賀川大橋付近の4車線化等が進められています。



中島高架橋（仮称）の完成イメージ（那賀川大橋北詰）※

Safety & Security
2 Safe River
河川

来るべき南海トラフの巨大地震等に備え、東日本大震災を教訓として、那賀川および派川那賀川（桑野川）の河口部において、堤防高上げや液状化対策等が進められています。また、台風や近年多発傾向にあるゲリラ豪雨等による洪水、浸水に備え、長安口ダム改造事業や深瀬地区等無堤地区における築堤事業が進められています。（画像提供：国土交通省）

那賀川流域の安全・安心をめぐって

那賀川水系の河川整備にあたっては、「安全で安心できる那賀川水系の未来が拓ける川づくり」を基本理念に、関係機関や流域住民との情報の共有・連携を図りつつ、治水・利水・環境に関わる施策を総合的に展開することとし、平成19年6月に策定した「那賀川水系河川整備計画」に基づいて実施されています。

平成26年度においては、無堤地区の解消を目的とした河川改修事業に約4億円、東南海・南海地震等対策事業に約35億円、長安口ダム改造事業に約36億円の予算配分があり、事業が推進されています。



長安口ダム改造イメージ

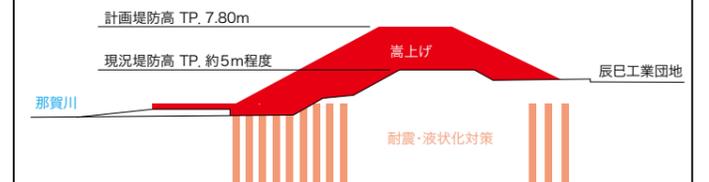
長安口ダム改造事業

長安口ダム改造事業は、那賀川流域の洪水被害を軽減するとともに、流水の正常な機能を維持するため、平成19年度にスタートしました。貯水池容量の振り替えによる洪水調節容量および不特定容量の増量を行うとともに、洪水調節能力向上のための放流設備の増設などが実施されます。

なお、今年度、ダム本体の工事が始まります。



那賀川河口部「右岸側」の断面図(イメージ)



長安口ダム改造後(イメージ)

那賀川
無堤地区の解消

浸水被害が頻発している那賀川無堤地区のうち、深瀬地区の築堤事業が引き続き実施されるとともに、今後、加茂地区の用地調査が行われます。

また、事業を進めるにあたっては、地域と一体となった「那賀川防災プロジェクト」の取組が取り入れられます。

※「那賀川防災プロジェクト」は、那賀川・桑野川流域の将来あるべき防災の姿として「災害に強いまちづくりによる地域の再構築・人的被害の軽減」を基本理念としています。



深瀬地区工事状況

那賀川、桑野川河口部
南海トラフ巨大地震対策

東日本大震災では、多くの堤防が液状化により沈下しました。その後、来襲した巨大津波により堤防は破壊され、多くの生命・財産が失われる甚大な被害となりました。これらの教訓を踏まえ、今後発生すると想定されている南海トラフの巨大地震等へ備えるため、那賀川、派川那賀川（桑野川）の河口部において、現在、堤防の高上げ、耐震・液状化対策工事が実施されています。

なお、水樋門の遠隔操作化・自動化は平成24年度に完了しています。



那賀川河口部工事状況
(上段：液状化対策、下段：堤防高上げ)

Safety & Security 5 Safe School 学校

学校施設の耐震化は平成20年度に着手し、現在までに小学校22棟、中学校14棟、幼稚園2棟の耐震補強工事および改築工事を実施しています。平成26年3月末現在の耐震化率は90.8%（幼稚園100%）です。今年度は、阿南第一中学校の剣道場耐震補強工事、阿南中学校の校舎改築、屋内運動場改築工事を行うなど、引き続き学校施設の耐震化を進めます。



阿南中学校改築工事完成イメージ図



完成間近の新校舎。8月上旬に引っ越し予定。

学校施設の改築工事 平成27年度完了予定

阿南中学校は、建設以来、すでに45年が経過し、経年による施設の老朽化の進行に加え、耐震性も著しく劣ることから、平成24年度から平成27年度にかけて改築工事を進めています。校舎棟の改築工事は、6月末に完成の見込みです。

今後は、既設校舎解体・屋内運動場（体育館）改築工事、平成27年度には、既設屋内運動場解体・外構整備工事を予定しています。

Safety & Security 6 Evacuation Facilities 避難施設

津波対策の1次避難場所および物資等の輸送基地として、ゆたか野地区防災公園、津乃峰地区防災公園を整備しています。ゆたか野地区防災公園は、県の新津波浸水想定（H24.10）により、公園の計画高を見直し、平成26年度中の完成をめざします。津乃峰地区防災公園は、耐震性貯水槽、備蓄倉庫などが完成し、今後は園路整備、休憩施設、照明灯、植栽、舗装工事を行い、平成27年度中の完成をめざします。



ゆたか野地区防災公園完成イメージ図（那賀川町）



津乃峰地区防災公園完成イメージ図（津乃峰町西分）



津乃峰総合センター完成イメージ図

津乃峰総合センター 平成28年4月開所予定

津乃峰地区の津波避難困難箇所や2次避難所不足を解消するため、同町長浜に「津乃峰総合センター」を建設します。

同センターは、鉄筋コンクリート造4階建ての複合施設で、公民館のほかに学童保育、消防詰所が入居します。災害時に1次、2次避難所としての機能を発揮するとともに、平常時は防災まちづくり拠点として有効活用されます。

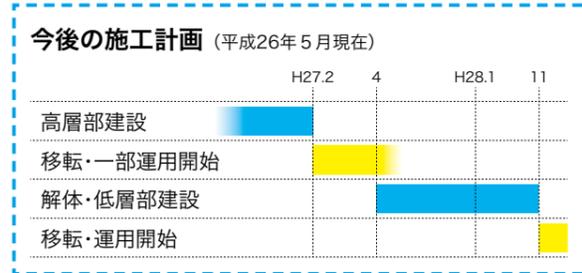
現在、実施設計および造成工事が完了しており、今後は建設工事に着手し、平成28年4月の開所をめざします。



H25.4.24 安全祈願祭 H25.11 基礎工事完了



現在、高層部（7階建て）を建設中



Safety & Security 3 Safe City Hall 庁舎

新庁舎建設は昨年3月に着工し、分庁舎の解体後、砂杭打設による地盤改良、免震装置設置を含む基礎から地下1階にかけての工事を終え、現在は、高層部の鉄骨建て方工事を行っています。高層部は7階建てで、高さは36.8m。中心市街地の建物でもっとも高く、完成すれば阿南市のランドマーク的存在になります。

災害対策の拠点施設 充実した防災機能

新庁舎は、最新の耐震基準を満たし、地震時に揺れを抑えるための免震構造を採用することで、震災直後でも防災拠点としての機能を維持できます。

また、ライフラインが途絶した場合でもその機能を維持するため、自家発電設備等を7階に設置します。災害発生時には、低層部1階を情報広場として開放するほか、市民広場も災害対策活動スペースとして利用できるようにします。

Safety & Security 4 Wireless Station For Disaster Prevention 無線



▲外部接続箱に内蔵されたマイク

防災行政無線は、合併前の旧1市2町でそれぞれ整備されていましたが、合併後、市役所本庁から一斉放送ができないことや、機器の老朽化により有事の際の利活用が懸念されることから、総事業費13億4千万円をかけて平成24年度から整備しています。

市内全域に一斉放送 双方向通信も可能に

デジタル防災行政無線設備は、地震、台風、水害などの災害情報や緊急情報を屋外に設置したスピーカーから、音声やサイレンによってお知らせするシステムです。災害時に住民の生命および財産を保護するとともに、平常時は、行政からのお知らせなどに有効活用しています。

システムの特徴として、国が発信する緊急地震速報などを瞬時に伝達する全国瞬時警報システム（Jアラート）の運用や、ケーブルテレビの自主放送チャンネルへのテロップ挿入、緊急速報メールの携帯3社（NTTドコモ、au、ソフトバンク）同時配信と放送内容がメールで確認できるようになります。また、一部の屋外拡声子局にアンサーバック機能を付加しており、外部接続箱に内蔵されたマイクで親局と通信が可能となり、子局単体での外部放送も行えます。

現在、旧阿南市の沿岸部および那賀川町、羽ノ浦町において運用が開始されており、残りの長生・大野・加茂谷・新野地区の一部の地区についても、6月末には完了する予定です。